

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2168号

2013年07月01日（月曜日）

## 《 uprising world markets 》

先週の世界のマーケットでは、前半と後半で景色が一変したような雰囲気がありました。週の前半はその前の週と同じように、「アメリカの金融の“超緩和”の縮小を巡る懸念」が尾を引き、加えて中国経済・金融の先行きに対する懸念が強くて、非常に脆弱な印象がした。株価もそうでした。それに対して週の後半はこれらの懸念が後退して、先行きに対する楽観論が支配した。

その結果、今年5月22日以降では珍しく「世界的な株高」傾向が見られ、世界の主要20市場の中で、「先週週足で下げたのはイタリア、アルゼンチン、中国の三市場のみ」（日経ネットの記事から引用）という状況になった。もっともこの三市場では中国・上海市場の4.53%という週足での大きな下げが気になる。これは中国の習近平政権が発足早々にあって今後の中国経済をどう運営していくのかという問題に関して、中国人民銀行の政策一つをとっても不明確な点が残っているからだ。

つまり、金融政策も動員して外科・内科手術を行って経済の体質転換（量から質へ、汚職撲滅、富の分配の促進など）を徹底して行うのか、それとも従来ほどではないが経済の“成長”にある程度ポイントを置いて経済運営をするのか。今現在では前者のように見えるが、「それにしても、手術を行うに当たっての中国当局の習熟度は心配だし、指導部の内部を含めて習近平政権への支持の程度には懸念が残る。ましてや国民の反応は読み切れない」といったところだろう。だから上海の株価は世界でも突出的に下げている。

これに対して、アメリカや欧州の中銀関係者は先週、それぞれのマーケットに自分達の間違った考え方を浸透させる努力を行った。27日にはFRBのパウエル理事が「経済動向が弱ければ縮小を遅らせるか、買い入れを拡大する」と発言した。「(場合によっては)買い入れを拡大する」とは、それまでマーケットがあまり考えなかった視点からの発言であり、市場には新鮮だった。

またニューヨーク連銀の総裁も、先のバーナンキ議長の縮小スケジュールに関して、「一つのシナリオを提示しただけ」など、相次ぎ緩和縮小懸念に関する市場の懸念を払拭する努力を行った。実は、こうした努力はバーナンキ議長がFOMCの理事会後の記者会見で既に行っていたものだ。しかしその発言の刺激的な部分での見出しによって走り出した市場では、「分かっているけどポジションが危機に立つのを回避したい」という動きになって、動揺が広がった。

FRB の関係者にしてみれば、「もの分かりの悪いマーケットだ」と思っただろうが、マーケットとはそんなものだ。また時間の経過の中で市場のポジションがかなりこなれたこともあって、先週後半の相場の落ち着きになったと思われる。さらにヨーロッパでは、ECB のドラギ総裁が緩和継続を強調したこともマーケットの世界的な安定に寄与したと言える。もっともそれもあり、ユーロは対ドルでは下げ足を速めた。今週は木曜日に ECB の理事会があり、その後ドラギ総裁の記者会見がある。

投資家の不安心理はひとまず和らいだ形になっていて、東京の株価も先週は二週連続の上げとなった。5月の下旬以来、2週連続の上げになったのは初めてであり、ドル・円相場も5月の半ばまでとは違って、ゆっくりと100円の方角に動いている。この足の遅さが重要である。前回100円を突破したときにはその手前での足踏みが長かったが、今回は前回とは違った展開を示す可能性もある。

### 《 enough to weather cash crunch ? 》

今週の主な予定は以下の通り。

07月01日（月曜日）	日銀短観 中国6月製造業PMI指数 6月新車・軽自動車販売 ユーロ圏6月消費者物価 ユーロ圏5月失業率 米6月ISM製造業景況感指数 米5月建設支出
07月02日（火曜日）	6月マネタリーベース オーストラリア準備銀行理事会 米5月製造業受注 米6月新車販売
07月03日（水曜日）	ユーロ圏5月小売売上高 米6月ADP雇用リポート 米5月貿易収支 米6月ISM非製造業景況感指数
07月04日（木曜日）	日銀支店長会議 1~3月ユーロ圏GDP確定値 英イングランド銀金融政策委員会 欧州中央銀行理事会 欧州中央銀行のドラギ総裁が会見 休場=米国
07月05日（金曜日）	5月景気動向指数

## 米6月雇用統計

安定感を取り戻したような市場ですが、今週は日本での短観発表を皮切りに、世界の主要市場で大きな指標の発表が相次ぐ。仕上げが米6月の雇用統計という形になっていて、その間に中国 PMI やアメリカ ISM の景況指数の発表がある。いずれもマーケットが注目しているものであり、マーケットはこれらの数字に大きな関心を払うことになる。

中国の「シャドバンキング」に関する記事も増えてきていて、週末の日経の記事には『中国「影の銀行」の高利回り商品、残高 130 兆円に』という記事がある。

『中国の銀行業監督管理委員会の尚福林主席は 29 日、高利回りの資産運用商品である理財商品の 2013 年 3 月末の残高が 8 兆 2000 億元（約 130 兆円）に達したと明らかにした。理財商品を通じて企業や個人から集まった資金は主に地方政府の不動産・インフラ投資に流れており、個人や企業にリスクが広がっている。上海市で同日閉幕した金融フォーラムの講演で明らかにした。理財商品の残高は中国の 12 年の名目国内総生産 (GDP) の約 16%、人民元預金残高 (67 兆元) の約 12% に相当する。』

と伝えていたが、一方で米ウォール・ストリート・ジャーナルには「China Regulator Says Bank Reserves Enough to Weather Cash Crunch」という見出しで、以下のような当局者の発言も掲載されていた。

「China's banking regulator, in his first public comments since the country's worst cash crunch in at least a decade, said the operations of its lenders won't be disrupted because they've built up sufficient cash reserves.

Banks had about 1.5 trillion yuan (\$244.4 billion) of cash reserves as of yesterday that could be used for payment and settlement needs, more than double what is usually required, Shang Fulin, chairman of the China Banking Regulatory Commission, said in a speech in Shanghai today.

“The tight liquidity condition on the interbank market has been easing in the last few days,” Shang said at the annual Lujiazui financial conference. “This type of situation won't affect the banking sector's smooth operations.”

Chinese bank stocks jumped yesterday after People's Bank of China governor Zhou Xiaochuan pledged to maintain market stability following a cash squeeze that sent money-market rates to a record. Among buyers of the shares was Temasek Holdings Pte, Singapore's state-owned investment company, which said yesterday it raised its stake in Hong Kong shares of Industrial and Commercial Bank of China Ltd. to 8.07 percent from 7.92 percent. 」

現段階ではマーケットは依然として中国の不透明な金融・経済情勢には強い懸念を持っている、ということだろう。習近平の経済政策に関しては依然として明確さを欠く部分があって、それが上海の株価低迷に繋がっている。

### 《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。やっと梅雨真っ盛りという感じの季節になりました。しかし合間に晴れの気持ち良い日もありますから助かる。一方で時々ですが場所によっては集中豪雨のような展開もあって、一言で“梅雨”と言っても毎年のパターンと今年は随分と違うなと思う。

-----  
ところで最近ですが、日本の「旬を食べる」という良き食の習慣はどうなってしまうのだろう、と心配になることがありました。確か先々週だと思ったのです。あるホテルで仕事をしていた、「久しぶりに寿司でも。今はトリ貝がまだ美味しいのではないか」と思ってホテル内の寿司屋さんに行ったのです。たまには昼の寿司も良いと思ったし、その時のメシ友も賛成したので。カウンターに座って、「貝をいくつか切ってくださいよ....」と言ったら、顔見知りの板さんから意外な返事が。「今、駄目なんですよ...」「ミル貝はやっと認めて貰えたんですが....」と。つまり、トリ貝は旬なのに出不せないと。

「どうしてですか」と私。「ホテルに止められているんですよ」「何かあったらホテル全体の問題になるので....」と言われて。仕入れさえ出来ないのだそうです。基本的には今の時期に使える貝類は「ミル貝とアワビだけ」だと。「そりゃ酷いじゃない」と私。だって、街の寿司屋さんではトリ貝は今が旬の食材で、本当に美味しい。当然ながら食い下がったのですが、もともとないわけだからだめ。「トリ貝が行くよ」と言い聞かせた自分のお腹に、「今日は違うモノだよ」と訂正を入れるのが大変でした。

聞けばデパートなんかに入っている店も「実に厳しい仕入れ制限」を課されているというのです。その店は銀座などの街にもある名前の通った店のホテルの支店ですが、そこで何かあれば、例えば「ノロ」が出たら、「その店の問題というよりホテルやデパート全体の問題になるので」と言われているのだそうです。

残念ですね。その季節にその季節のものを食べる。それが日本の食習慣で、それが良き伝統だと思うのですが。そう言えば、京都以外のデパートで「鯖の押し寿司」を買おうと必ず「今日中に」と言われる。鯖寿司なんて一日後、そして二日後でも、いやそれの方が美味しいのに。そして京都の鯖寿司屋さんに行って、「あさって食べたいので」と言えばそのように作ってくれるのに。デパートやホテルの懸念は分かる。しかし私などは、あまりにも「安全第一の食」は面白くないと思うのですが。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail [ycaster@gol.com](mailto:ycaster@gol.com))の相

場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》